

平成 29 年度 事業計画書

事業計画は、前期同様「日本及びドイツ両国の学術及び文化の交流を行い、もって日本及びドイツの社会の持続的な発展に寄与する」(定款第 3 条)に基づき策定し、日独の文化交流を、広く、多くの人々に理解し受容していただくために活動を行う事とする。

前期は、半年間の事業期間であったため、音楽交流事業、日独科学技術講演会、日独の若者文化・ライフスタイルの研究事業の3事業であったが、本年は前期の3つの事業に、学生懸賞論文、大阪ドイツ文化センターとの協賛事業、吹奏楽部公開レッスンコンサートを加え、6項目の事業を行う。又ホームページが開設されているので、これらのイベントを広く一般に公開する。

事業計画

1. 科学技術講演会事業

現在地球規模で問題となっている「温暖化現象」や「エネルギー」「食料」問題等に関連して、国際社会の安定的な繁栄をどのようにすれば得ることができるのか。資源循環型社会の形成に向けて、この分野で先進しているドイツと日本の研究者、学識経験者の講演会を前期同様開催する。本年のテーマは「再生可能エネルギーについて」とする。

2. 学生懸賞論文募集事業

日独科学技術講演会同様の主旨で、再生可能エネルギーの技術ソリューションをテーマに学生懸賞論文を募集し、一席1編、二席2編を表彰する。特にこの分野で先進しているドイツとの交流を図り、日独両国の若者が先進的な役割を果たす環境を醸成する。

初期3年間程度は、応募条件を日本語・英語、日本在住、選考委員を日本人とするが、その次のステップで、応募者をドイツ在住者に拡大する。その場合日独文化交流の促進を図るため、選考委員に独大学教授を加え、テーマ設定や2次論文選考に参加する。

3. 日独の若者文化・ライフスタイルの研究事業

近年急速に進むグローバル化・情報化により、日独の若者文化とライフスタイルはどの様に変化しているか、また両国の文化交流に関して、今後いかなる展開が期待され得るのかを探ってゆく。

前年に引き続き、本年度も、「サブカルチャーを通じた日独交流の動向」をテーマにしたシンポジウムを開催する。

4. 大阪ドイツ文化センター活動との協賛事業

大阪ドイツ文化センターの推進するドイツ文化の紹介活動の中で、当財団の支援を希望される事業を協議し、協賛支援する。本年は以下の3事業を協賛計画する。

- ・ドイツの二つの劇団による児童劇
- ・ドイツ高画質技術によりプリントされた写真展覧会
- ・ドイツジャズコンサート

5. 音楽交流事業

1) デュオコンサート～ドイツロマン派音楽の香り～

一般社会人の興味が薄れつつあるドイツクラシック音楽の普及・伝承を図る為、主として青少年を対象に、身近な小ホールでクラシック音楽に親しみ、理解を深める機会を提供する。前期同様ヤンマーミュージアムで開催する。

本年は、クラリネット篠原猛浩氏、ピアノ安積京子氏とする。

2) 中高校吹奏楽部公開レッスン演奏会

世界的指揮者が、吹奏楽部(中学・高校)を指揮・指導する事により、学生が本物に触れより高く深い音楽の世界を体験することを目指す。又高名な指揮者の指導により、日々の練習にモチベーションを与え、新しい目標が生まれることから中高生の向上心を育てる。一方、日本にはアマチュアの演奏形態として吹奏楽が広く普及しているため、この機会が演奏者並びに聴衆にとって吹奏楽でドイツを中心とするクラシックの面白さを知る契機になれば、クラシックファンの間口を広げ、普及・伝承の一助となる。本年は、指揮者をドイツ在住の大植英次氏、対象学校を尼崎市内中高校とする。

以上